



学びのチャンスをすべての子どもに

言葉の壁でつまづく子どもをなくしたい！

【概要】

外国にルーツのある子どもたちの「言葉の壁」をご存じですか。外国にルーツのある子どもたちは、半年ほどで、ある程度の会話は出来るようになります。しかし、学習面の言葉はなかなか身につけません。それは「言葉の壁」の問題があるからです。多くの日本人の子どもは、幼少期から、親が、お話を聞かせたり、語りかけたりしながら日本語を身につけ、多くの言葉が彼らの引き出しに入ります。でも、外国にルーツのある子どもたちの「日本語の引き出し」はなかなか増えていきません。これでは、学習につまづくのは当たり前のことではないでしょうか。私たちは、「言葉の壁」を埋めながら、彼らに学習サポートを行いたいと思います。

【目標金額】

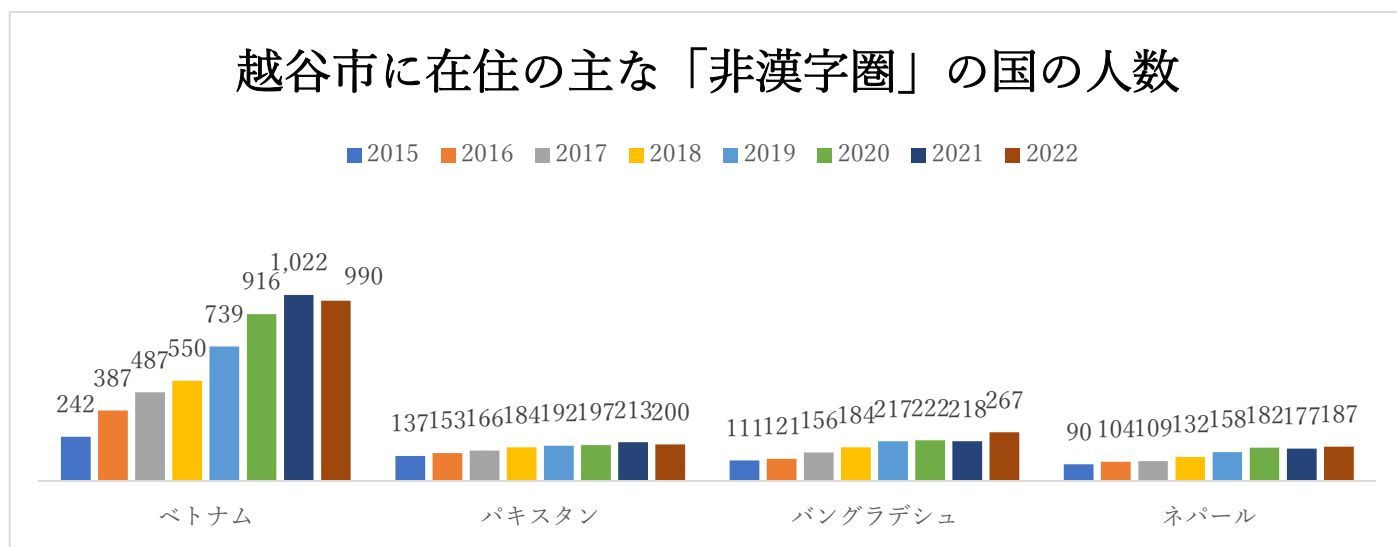
500 万

【学びのチャンスをすべての子どもへ～言葉の壁でつまづく子どもをなくしたい！】

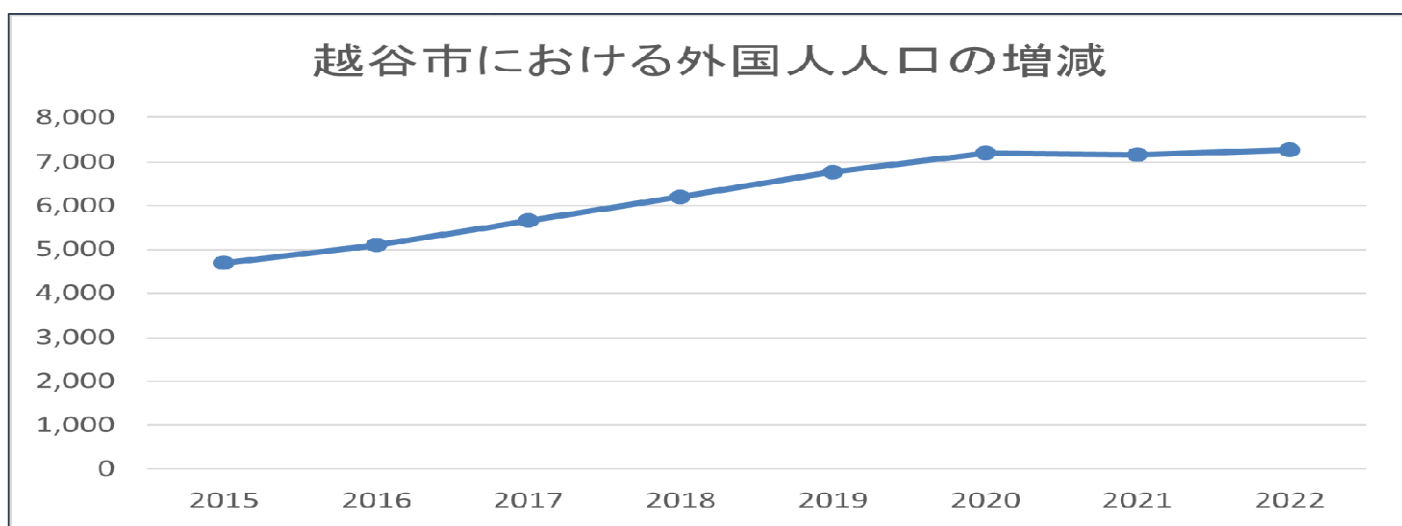
☆越谷市の状況

文化庁の 2 年に一回の調査によると日本語指導が必要な外国にルーツのある子どもたちの数は増えていきます。越谷市内でもその数は毎年増え続けています。

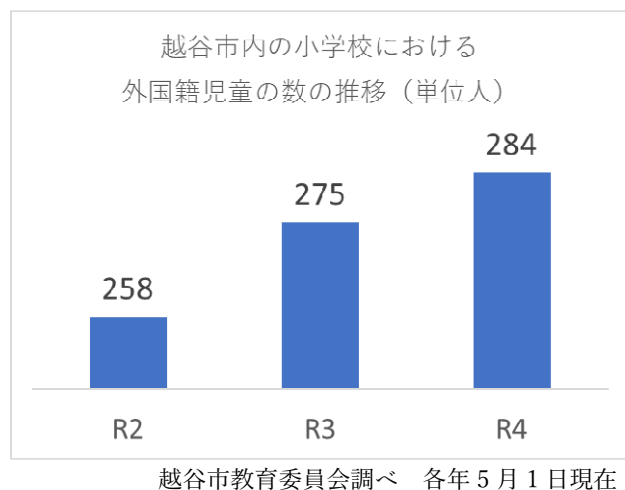
以下のグラフは、越谷市に在住の主な「非漢字圏」の国の人数を年度ごとにまとめたものです。



※越谷市が毎月発表しているデータをもとに作成 基準月は各年の7月1日現在 非漢字文化圏5ヶ国を抽出。

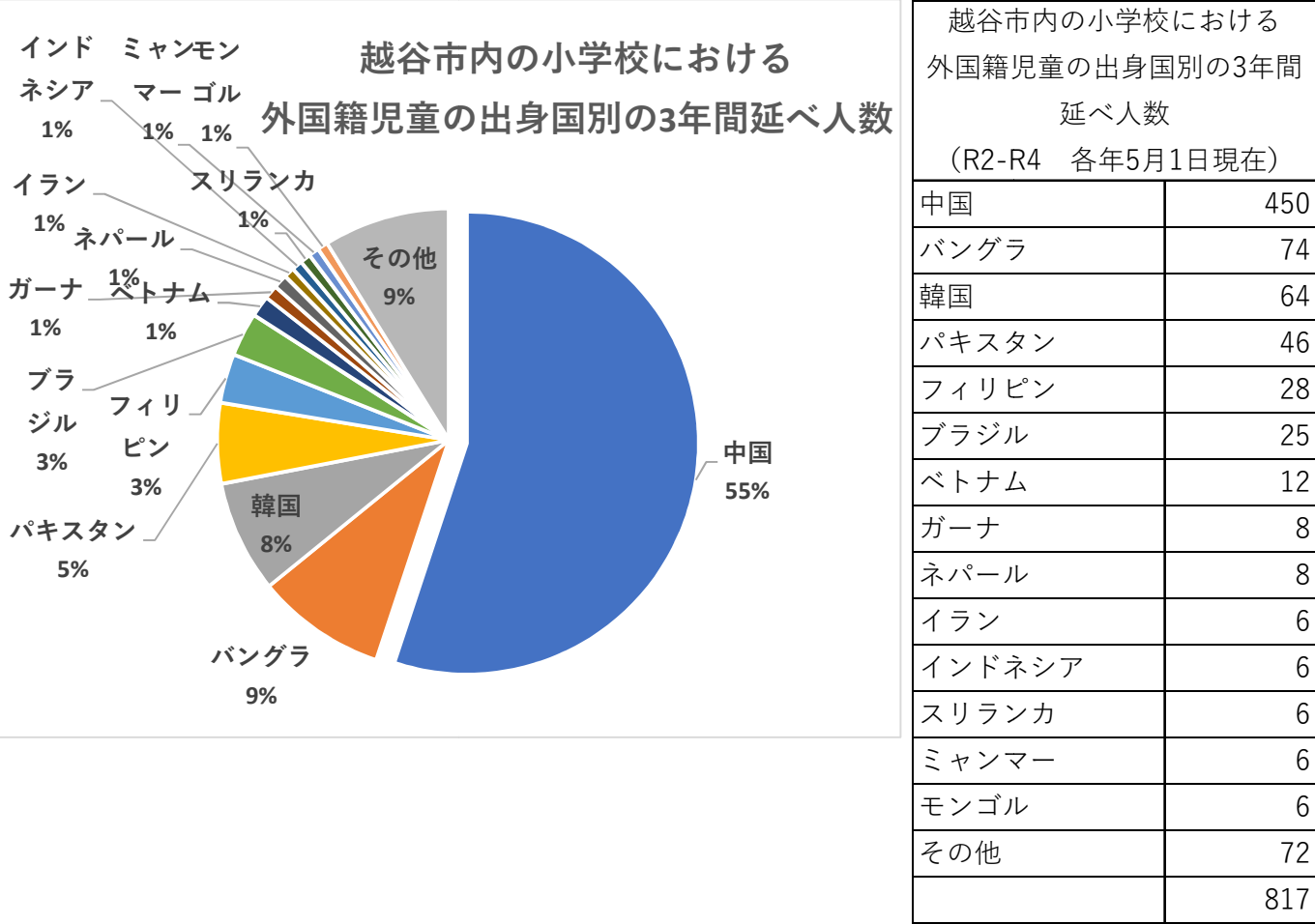


また、次のグラフは越谷市内の小学校における外国籍児童の人数の推移（令和2年～令和4年）を表したものです。コロナ禍であるにもかかわらず、外国にルーツを持つ子どもたちの数が増えていることが分かります。

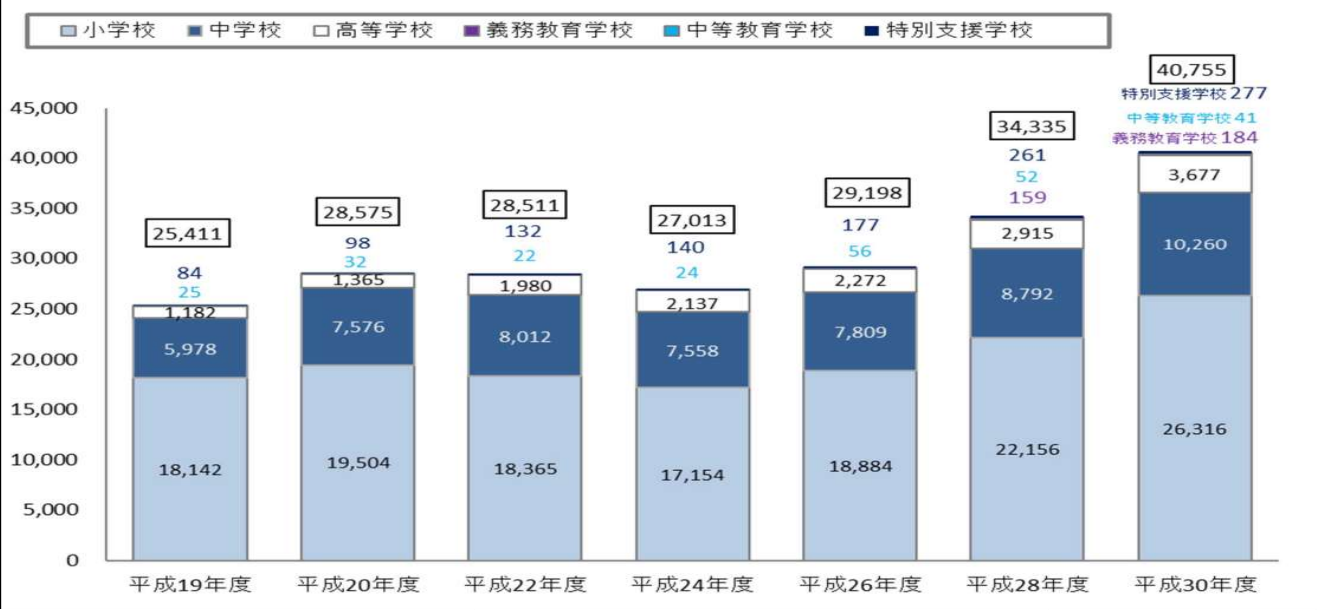


このグラフは、越谷市内の小学校における外国籍児童の出身国別 3 年間の延べ数を一覧にまとめたものです。

非漢字圏の国が半数近くを占めていること、子どもたちの出身国が様々であることが分かります。



また、文部科学省の調査によると全国的にも外国にルーツのある子どもたちは増えています。

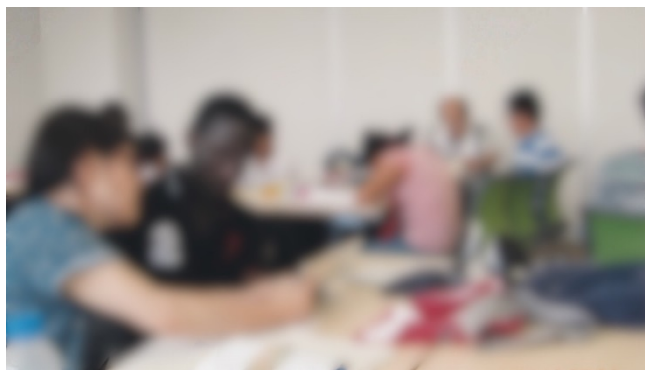
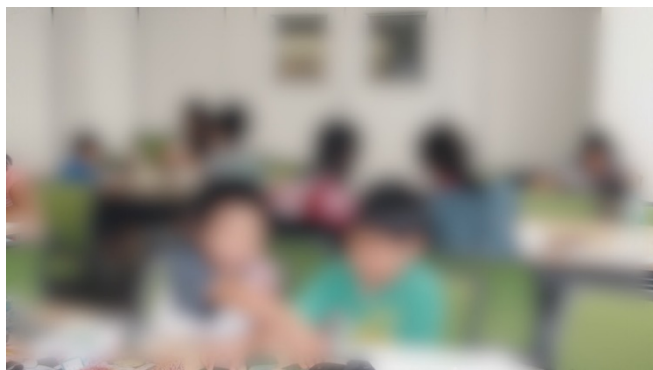


日本語指導が必要な児童生徒の受入状況等に関する調査 / 平成 3 0 年度 文部科学省 HP より

新型コロナウイルスの影響はあるものの、このように越谷市では年々外国人の人数が増加しています。そして同時に外国にルーツをもつ子どもの数も増えています。

☆言葉の数の不足

外国にルーツのある子どもたちの多くは、言葉の壁に悩んでいます。その一つに、「言葉の数」の問題があります。多くの日本人の子どもは、親や家族が、話を聞かせたり、語りかけたりしながら日本語を身につけていきます。



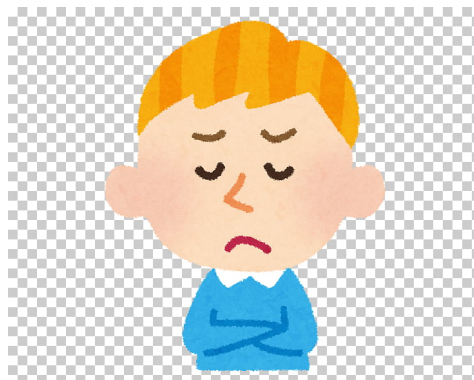
※写真は越谷市内の子ども支援団体に参加したときの画像です。個人を保護するためにモザイクをいれています。

でも、多くの外国人の子どもは、家では母語で親と話します。そのため、日本語の「言葉の数」は日本人よりも圧倒的に少ない状態で成長していきます。小学校の低学年や高学年で来日した子どもは、日本語が分かりませんから、当然、日本語の「言葉の数」が足りません。来日してから「言葉の数」を増やしながら、学習しなければなりません。

一方、日本人の子どもも多くは、幼少期からの積み重ねで「言葉の数」を持っていて、それを基礎に学習に入っていきます。ひらがな、カタカナも習得している子どもは大勢います。

しかし日本語の蓄積が少ない外国人の子どもにとって、学習で使う言葉は、もちろん、日常の言葉の多くが、**全く初めての言葉であり、「言葉の数」が足りません**

その足りなさから、学習につまずくのは当たり前のことではないでしょうか。



このハンディは、**高校入試のときが最高の壁になるでしょう。**

日本語の言葉の数がまだ少ない外国にルーツのある子どもたちにとって、選択できる高校の数は限られてしまいます。また、高校に入学してからも、「言葉の数」は大きなハンディとして、外国人の子どもを悩ませます。



過去に行った、外国人の子どもたちを対象とした高校進学ガイダンス（2016年）※個人を保護するためにモザイクをいれています。

実は外国にルーツのある子どもたちの多くは、日本語が話せます。周囲の大人たちも、彼らは日本語が話せるから問題がないと思います。教室では、勉強ができないのは自己責任として扱われ、彼らの言葉の少なさには、誰も、着目しません。

でも、外国にルーツのある子どもたちが話す言葉は、きちんとした日本語ではなく、友達同士で使う日本語です。誰に対しても友達言葉になってしまい、正確な日本語がなかなか話せません。



小学校、中学校には外国にルーツのある子どもたちが、日本人の子どもたちと一緒に勉強しています。すべての子どもたちは、私たちの将来を担う、大切な子どもたちです。「言葉の壁」に進路を閉ざされる子どもは少なくありません。日本語を母語としない高校入試の説明会に当団体は協力していますが、希望の進路を断念せざるを得ない子どもたちは少なくありません。

しかし「すべての子どもに学びのチャンス」が与えられれば、子どもたちに自信が付き、学ぶ意欲が湧き、将来への希望が出てくるのではないのでしょうか。私たちの街は、日本人だけで作っているわけではなく、多くの国の人たちによっても支えられています。外国人の子どもが明るい未来を持つことは、家庭が明るくなり、学校、地域と明るさの連鎖になると考えます。それほど、子どもに「学び」を与えることは非常に重要なのです。



☆収入による教育の不足

そしてこれらの原因の多くに、収入による教育の不足が考えられます。

では、コロナ禍で外国の人たちはどのくらい生活に影響を受けているのでしょうか？

私たちは 2021 年 11 月に埼玉県の一部地域を中心に新型コロナについてのアンケート調査を外国人に行い、455 人から回答をもらいました。

その結果、

半数の外国の人たちの生活が困窮していることが分かりました。
困窮している状態で、どこまで子どもの学習を親が見てあげられる
のでしょうか。そもそも、親は日本語が話せるのでしょうか。

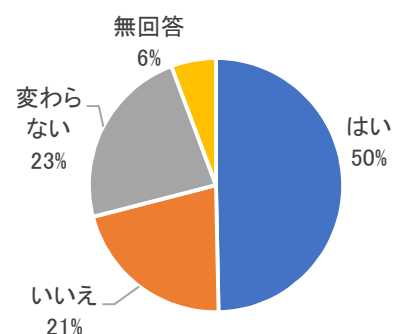
在住外国人への就労とワクチン接種についての アンケート分析報告書（概要版）

COVID-19 禍における在住外国人の就労支援とワクチン接種に関する事業

ー 公益財団法人かめのり財団緊急支援プロジェクト助成事業 ー



一般社団法人 多文化共生コスモ越谷



COVID-19 で生活が苦しくなりませんか。

https://www.tabunka-kosumo.or.jp/224/20220309_questionnaire_report/

外国にルーツのある子どもたちと同じような状況が、実は日本人の子どもにも最近見られます。生活に余裕がなく、多様な言葉に触れたり、学習環境を思うように整えるチャンスに恵まれなかったりする子どもたちです。

内閣府は2021年12月、「子どもの生活状況調査の分析」報告書を公表しました。この調査は子どもの貧困の実態を調べるため、政府として初めて行った全国調査です。

この分析報告書の概要において、「収入の水準が低い世帯やひとり親世帯では、新型コロナウイルス感染症の影響を受け、生活状況がさらに厳しくなっている可能性がある。」と述べています。

生活状況の影響が学習面にも現れ、その結果が、以下の図2-2-1-11に現れているのではないのでしょうか。

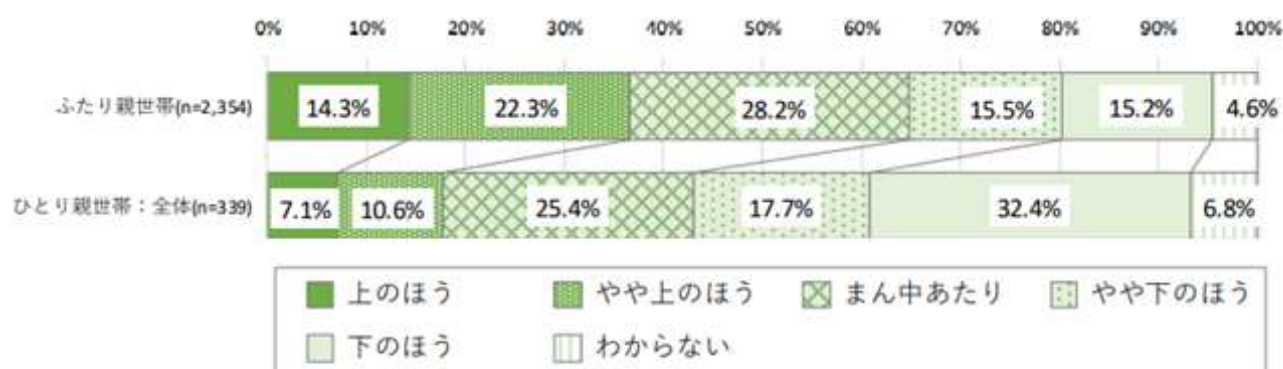


図 2-2-1-11 世帯の状況別、クラスの中での成績

この調査を受け、B e n e s s e は

「貧困家庭に育った子どもが大人になっても貧困状態から抜け出せない「貧困の連鎖」も心配されており、対策が急務です。」

という見解を示しています。

<https://benesse.jp/kyouiku/202201/20220125-1.html> ベネッセ記事より引用

☆私たちに出来ること

そのような現状を踏まえ、私たちはこの現状を何とかしたいと考えました。

私たちは、勉強するチャンスを すべての子どもたちに与えたいと考えています。

外国にルーツを持つ子どもたちはもちろん、貧困により学習環境を思うように整えられない子どもたちも救えるような場所を作りたいと考えています。学習支援の場所を提供するだけでなく

そのような子どもたちに、ボランティアが寄り添いながら、勉強の場のチャンスを広げ、自分たちの将来像が見えるような人生設計までも作ってあげられたらいいなと考えています。

【寄附金の使い道】

子どもたちの勉強には、大学生、高校生の力が欠かせません。私たちは、若者と協力しながら、子どもたちの勉強のチャンスを作っていきたいと考えます。

しかし、このような活動には、場所の確保、教材開発、継続的なボランティアなど、活動を続けるための資金が必要です。

皆様からのご寄付は「**学びのチャンスをすべての子どもへ**」の活動費として使わせて頂きます。

活動費の大きな柱として、活動場所のお金、教材費、支援者へのお礼、交通費があります。

まず、継続的な活動をするための場所の確保をしなければなりません。公共の施設が定期的に使えればいいのですが、使えない場合は、子どもたちは場所の移動をしなければなりません。子どもにとって、学習の場の変更は、特に、学年が低い子どもにとっては大きな負担となります。場所を確保するために、民間の施設を借りた場合、1時間3,000円以上の場合もあります。

次に小学生から中学生までの子どもに対応する学習教材、加えて日本語の教材が必要です。

子どもたちにとって、読解を必要とする国語、社会は非常に苦手な科目です。また、日本語が不自由な子どももいるでしょう。学習教材は基本的に、子どもに持参してもらいますが、支援者に教材がなければ、「学びの場」が提供できません。

最後に、大学生、高校生に継続的な活動を支えてもらうための、ある程度のお礼、交通費なども活動費として提示します。すべてを無償でやるのではなく、活動を継続すること、継続により支援者の経験値を上げていくための経費だと考えます

活動を行うためのお力を皆様から頂ければと思います。よろしくお願い申し上げます。

☆活動予定

活動は 2023 年の 6 月から行う予定です。まず、学びの場の確保、大学生、高校生への説明会、そして、マンツーマンによる学習指導に入っていきます。

活動予定

2023 年 4 月～ 活動に向けた諸準備

6 月 学びの場所の確保、選定

7 月 大学生・高校生への説明会

8 月 受け入れ開始



代表理事 奥村と子どもたち

☆最後に 代表奥村からのご挨拶 寄付者へのメッセージ

私たちは、外国人と日本人が地域で共に安心して生活できることを目指す団体です。いま、外国人だけの家庭が地域では増えています。それは、文部科学省の平成 30 年度の日本語指導が必要な子どもの数の増加に現れています。また、私たちは、外国人の子どもと保護者を対象とした高校入試の説明会に協力していますが、近年は両親が共に外国人の家庭がほとんどです。

両親から日本語を受け取れない、日本語の「言葉の数」の少ない子どもは、どうやって学校生活を送っているのでしょうか。日常会話はできても、テストではいつも寂しい、そして、悔しい思いをしているかもしれません。

母国である程度、成長してから来日した子どもは、母語で書いてあればわかるのに…と思うでしょう。日本生まれで、両親共に外国人の子どもは、母語でも、日本語でも、言葉を獲得していくのは簡単なことではありません。また、日本人でも、仕事で子どもの教育に関われない世帯が増えていると聞きます。「言葉の壁」の問題は外国人の子どもだけではありません。

日本語の「言葉の数」の少ない子どもは努力が足りないのでしょうか。いいえ、年齢も低い子どもが1人で頑張るには、あまりにもハードルが高すぎます。子どもにとって、「学ぶこと」と「言葉の数」は、絡まり合う縄のように一つです。その一つの少なさから、自らの力で、歩けない子どもたちに、学習のチャンスを与えたいのです。諦めないで、あなたは、1人ではないよ。そんなメッセージを届けて、一緒に頑張りたい。それが、私たちの願いです。